

Mémoire 2024

第74回 安田記念 (GI)



これぞ香港が誇る世界の力 ロマンチックウォリアー

小雨の府中で、世界を股にかける香港の強豪が躍動した。

日本馬も錚々たるメンバーが揃っていた。前走のマイラーズCを完勝し、悲願のGI制覇を目指すソウルラッシュ。2年前のJRA賞最優秀短距離馬で、前年2着のセリフォス。2023年マイルチャンピオンシップの覇者で、その後も香港マイル3着、24年ドバイターフ2着と世界で好走しているナミュール。しかしそれらを抑えて1番人気に推されたのは、香港からやってきたロマンチックウォリアーだった。

地元ではクイーンエリザベスII世Cを3連覇、香港Cは2連覇中。オーストラリアでもコックスプレートを制するなどGI通算7勝を誇る香港の現役最強馬は、好スタートを決めると先団の馬群で流れに乗る。直線では他馬に囲まれなかなか追い出せなかったが、残り400mで前が開くや、力強くスパート。J.マクドナルド騎手のアクションに応えて残り200mで早くも先頭に立つと、外から馬体を併せて追い込むナミュールとソウルラッシュの猛追を半馬身振り切り、3カ国目でのGI勝ちを果たした。

これが10年ぶりの来日だったマクドナルド騎手はウイニングランで

何度もガッツポーズ。「彼はチャンピオンホース。今日はその強さを見せられたことを誇りに思います」とパートナーを称えた。

C.シャム調教師は、この年の高松宮記念ではビクターザウィナーで参戦し3着。24年前にはI.アラン厩舎の調教助手としてフェアリーキングブローンで安田記念を制していた。2,000mが主戦場のロマンチックウォリアーは久しぶりのマイル戦だったが、「シャティンより直線が長いし、この競馬場ならマイルでも大丈夫だという自信がありました」と笑顔でコメント。2006年ブリッシュラック以来、18年ぶり4頭目の外国馬の優勝に終わった安田記念は、まさにワールドクラスの強さを堪能できた一戦となった。

第74回安田記念 (GI)

6/2 東京競馬場 1,600m(芝・左) 小雨・稍重 18頭								
着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/育達	人気	通過順位
1	ロマンチックウォリアー	騾6	58	J.マクドナルド	C.シャム	1:32.3	①	⑥⑤
2	ナミュール	牝5	56	武 豊	高野 友和	1/2	④	⑬⑬
3	ソウルラッシュ	牡6	58	J.モレイラ	池江 泰寿	ハナ	②	⑩⑪
4	ガイアフォース	牡5	58	長岡 禎仁	杉山 晴紀	1	⑤	⑧⑦
5	セリフォス	牡5	58	川田 将雅	中内田充正	1/2	③	⑮⑮

ロマンチックウォリアー
栄光の蹄跡

7

Acclamation 123 M,I
ロマンチックウォリアー
Folk Melody (Street Cry)
2018.3.18 生 愛・Corduff Stud & T.J. Rooney



騎6
鹿
J.マクドナルド
1992.1.6 生 —
58
P. ラウ氏
C.シャム

2024.4.28 香港
クイーンエリザベスII世カップGI
11ト — ① (120)
57*。 J.マクドナルド
芝2000稍 2:01.0

2024.2.25 香港
香港ゴールドカップGI
11ト — ① (120)
57*。 J.マクドナルド
芝2000良 2:00.3

2023.12.10 香港
香港カップGI
11ト — ① (120)
57*。 J.マクドナルド
芝2000良 2:02.0